

折に触れ 四字熟語

NO. 58 『川上之歎』 せんじょうのたん

< 意味 > 時の無常に過ぎ去ることの歎き。孔子が川のほとりでその流れを眺めながら、万物の移り変わってやまないのを嘆いた故事。

< 出典 > 「論語」<子罕^{しかん}>

「子在川上曰、逝者如斯夫。不舍昼夜。」

読み下し：『子、川上^{せんじょう}に在りて曰く、逝^ゆく者はかくのごときか、昼夜^おを舍かず。』

通 釈：川のほとりに立って、孔子は言った。

「歳月はちょうどこの水のようなものだ。昼も夜も休むことなく流れつづける」

★過ぎゆく時に対する詠嘆ととるのが普通だが、もっと、積極的な解釈もある。

「万物は川の流れのようにたえず発展をつづける」と解し、孔子は人間のたゆまぬ努力を求めているのだとみる朱子の説、

「君子の徳は川の流れのようにつねに新しい」と解する伊藤仁斎の説がそれである。

一 言： 論語シリーズその4

早いものでこの年も残すところ、あと一と月半になりました。

参考文献： 徳間書店「論語」 三省堂「四字熟語辞典」